

【講義と演習⑤】個を支える地域づくり(前半)

日本福祉大学 原田 正樹

氷見市社会福祉協議会 森脇 俊二

【ケースの概略】

夫60歳代後半(統合失調症)で、同じく妻(左半身まひ、精神科通院歴有)も60歳代後半、住民票上は、長女の3人暮らし。ある日、夫が家で電気を交換中に椅子から落ち、腰の圧迫骨折で入院中。入院中に医療費の支払いと生活について妻から病院のMSWに相談があったことから、夫の介護保険申請を機会に包括を経由して金銭的に生活が苦しい状態(滞納や借金があるため)にあるということで自立相談支援機関へつながった。長女は、県外にて住み込みで働いているため、ほとんど会えず、父親の見舞いにも来ることなく、非協力的。

近隣は、夫婦が精神科通院歴があることから、疎遠な状態。

今後、退院後の生活のこと、入院費や生活費のことについて心配なことが山積みとなっている。

現在わかっていること

【夫】

- ・統合失調症（精神科病院へ定期的に受診）
- ・過去に義父に暴力を振るい、措置入院、現在は安定している。
- ・免許の更新が気になっている。
- ・市外に兄がいるが、入院中限定で妻の病院への送迎を行っている（関係は良くない）
- ・リハビリを行い、自力歩行はできるが見守りが必要。（入浴等）

現在わかっていること

【妻】

- ・精神科受診歴あり：病名不明（現在は通院していない）
- ・15年前に脳梗塞を患い、左半身まひ。ADLは自立
- ・運転ができないため、常に夫と一緒に行動している。
- ・市内に妹がおり、過去には金銭管理をしてもらっていたが、現在は不仲。
- ・買い物は、近所の商店で配達してもらっている。（主に、おかず類）

現在わかっていること

【子】

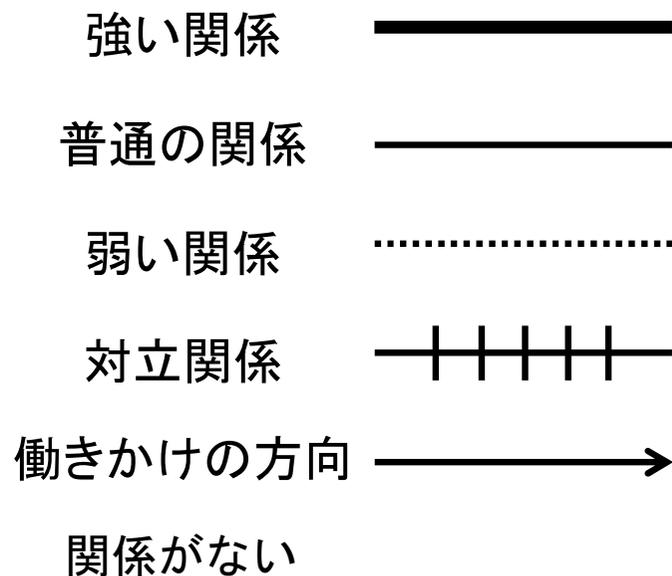
- ・長女は、県外で住み込みで働き月14万円程度の収入。不定期で帰宅している。
- ・次女は、嫁ぎ先に気を使い、連絡をとっていない。

【周囲】

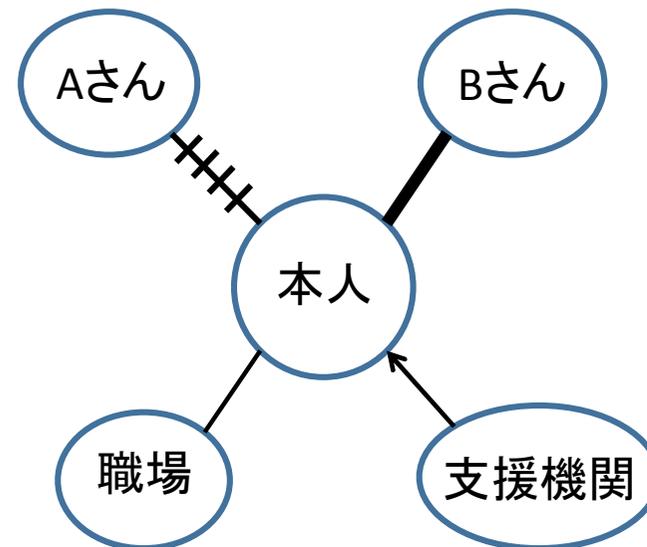
- ・元自治会長の妻が妻のことを気にかけているが具体的な関わりはない。その他の近隣住民との関わりはない。

■ 個人ワーク エコマップの作成について解説
中心に本人を置き、その周りに関係性のある人物や
機関を配置して、関係性を線でつなぎます。

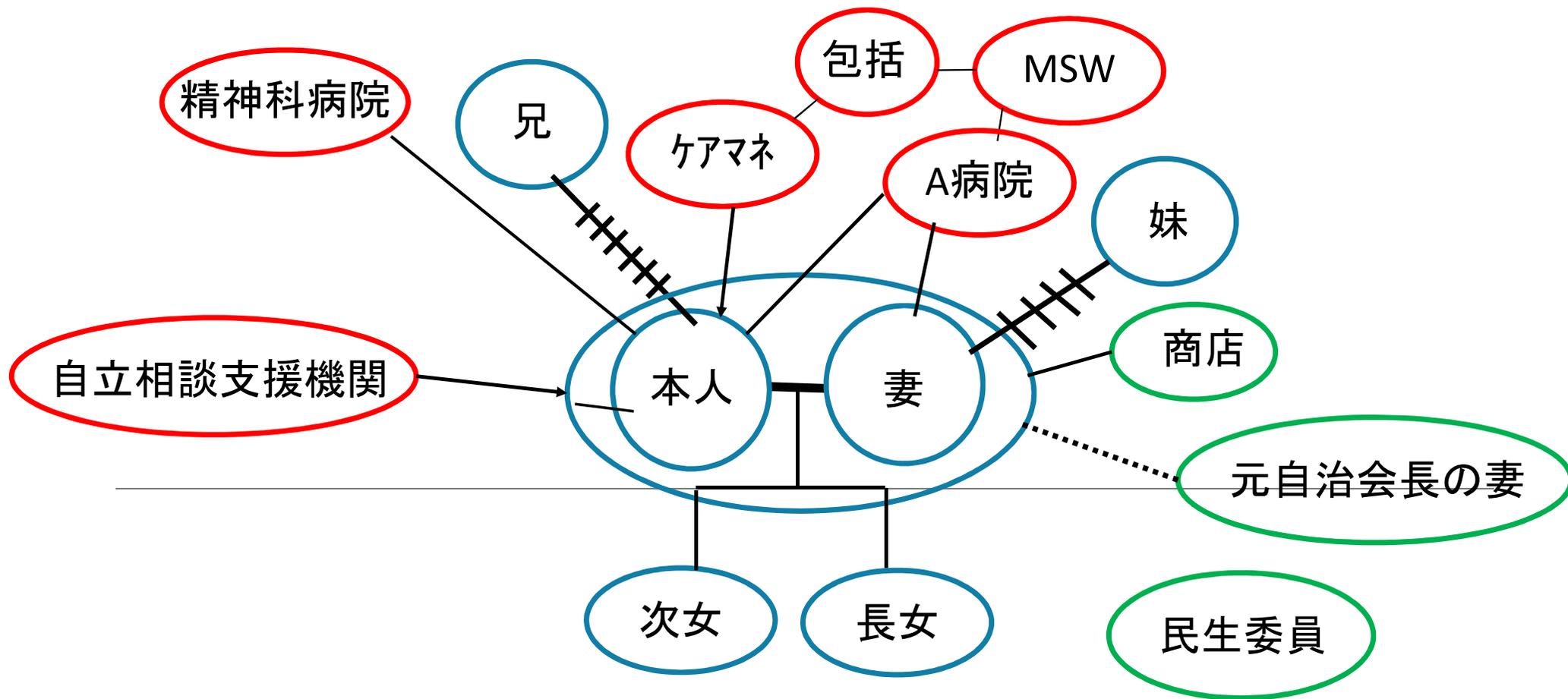
【関係性の線】



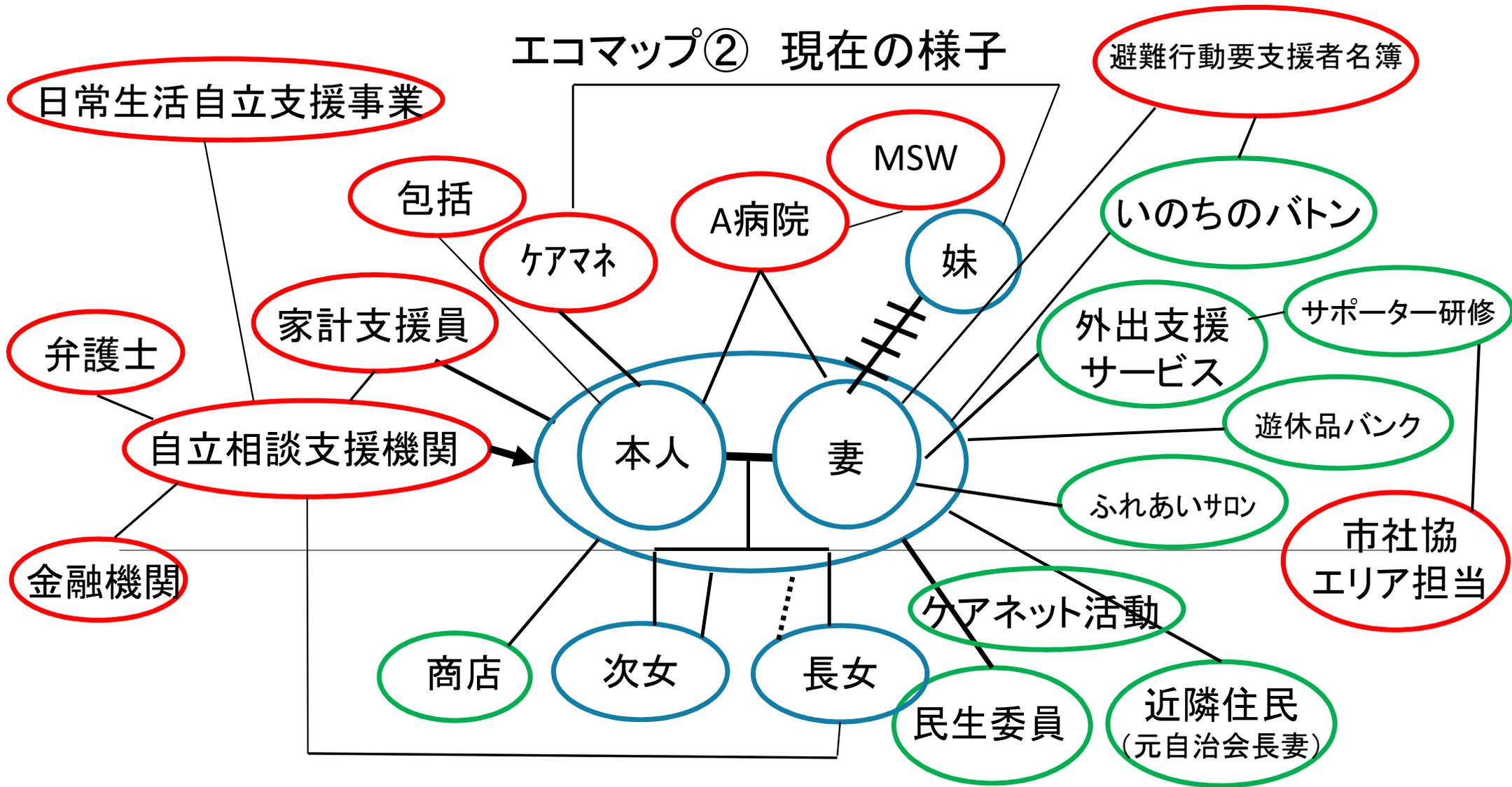
【エコマップの例】



エコマップ① 最初の様子



エコマップ② 現在の様子



【講義と演習⑤】個を支える地域づくり（前半）

ケースの概略

夫 60 歳代後半（統合失調症）で、同じく妻（左半身まひ、精神科通院歴有）も 60 歳代後半、長女の 3 人暮らし。ある日、夫が家で電気を交換中に椅子から落ち、腰椎骨折で入院中。入院中に医療費の支払いと生活について妻から病院の MSW に相談があったことから、夫の介護保険申請を機会に包括を経由して金銭的に生活が苦しい状態（滞納や借金があるため）にあるということで自立相談支援機関へつながった。長女は、県外にて住み込みで働いているためほとんど会えず、父親の見舞いにも来ることなく、非協力的とのこと。

近隣は、夫が義父とのトラブルから精神科に措置入院した経歴があることから、疎遠な状態となっている。

今後、退院後の生活のこと、入院費や生活費のことについて心配なことが山積みとなっている。

◆現在わかっていること

【夫】

- ・統合失調症（精神科病院へ定期的に受診）
- ・過去に義父に暴力を振るい、措置入院、現在は安定している。
- ・免許の更新が気になっている。
- ・市外に兄がいるが、入院中限定で妻の病院への送迎を行っている（関係は良くない）
- ・リハビリを行い、自力歩行はできるが見守りが必要。（入浴等）

【妻】

- ・精神科受診歴あり：病名不明（現在は通院していない）
- ・15 年前に脳梗塞を患い、左半身まひ。ADL は自立
- ・運転ができないため、常に夫と一緒に行動している。
- ・市内に妹がおり、過去には金銭管理をしてもらっていたが、現在は不仲。
- ・買い物は、近所の商店で配達してもらっている。（主に、おかず類）

【子】

- ・長女は、県外で住み込みで働き月 14 万円程度の収入。不定期で帰宅している。
- ・次女は、嫁ぎ先に気を使い、連絡をとっていない。

【周囲】

- ・元自治会長の妻が妻のことを気にかけているが具体的な関わりはない。その他の近隣住民との関わりはない。

【講義と演習⑤】個を支える地域づくり（前半）

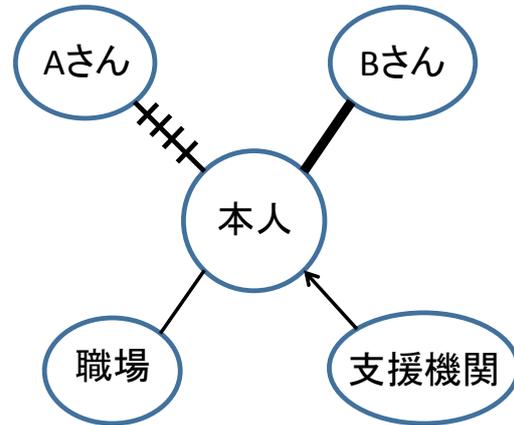
■個人ワーク エコマップの作成について解説

中心に本人を置き、その周りに関係性のある人物や機関を配置して、関係性を線でつなぎます。

【関係性の線】

強い関係	—————
普通の関係	—————
弱い関係
対立関係	+++++
働きかけの方向	—————>

【エコマップの例】



次のページにエコマップ作成シートがあります。

【講義と演習⑤】個を支える地域づくり（前半）

■個人ワーク エコマップ① 最初の様子

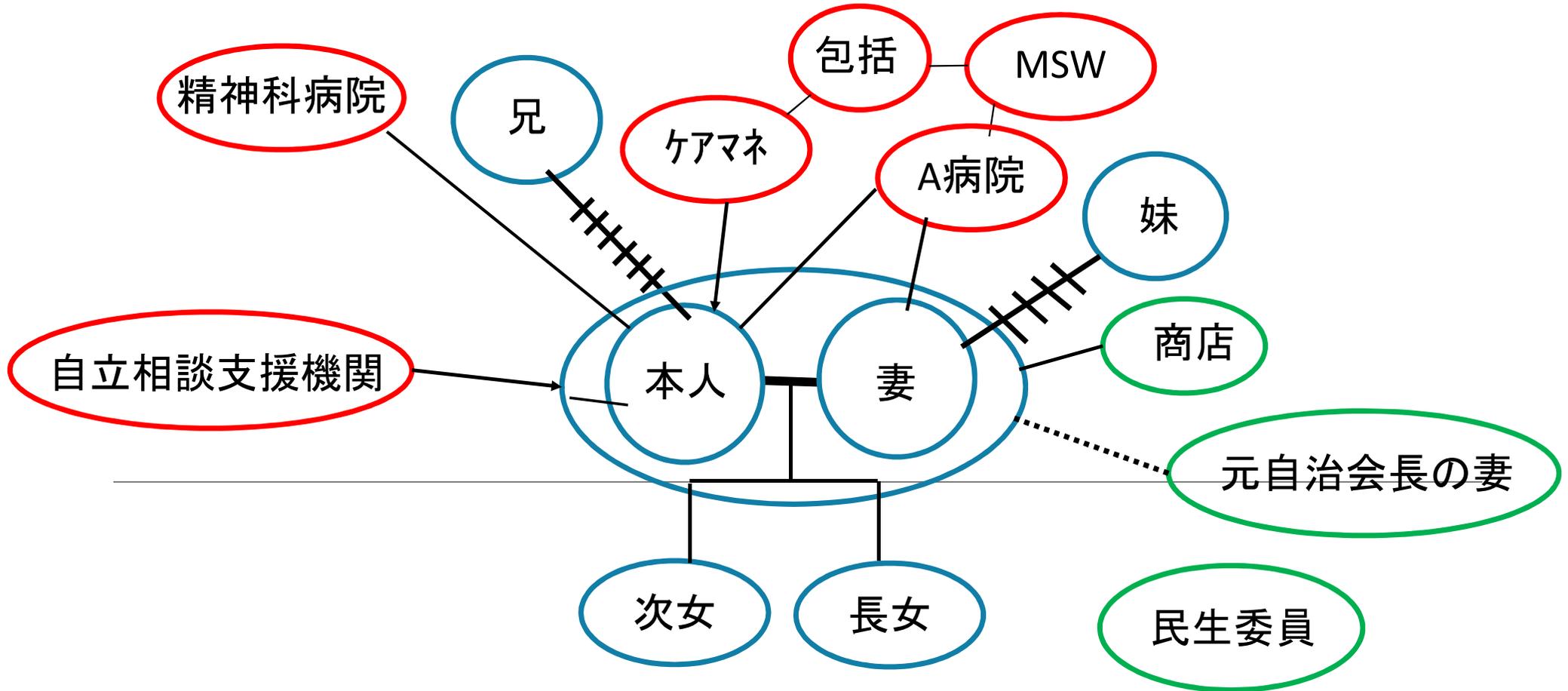
現状のエコマップを下に作成してください。

【講義と演習⑤】個を支える地域づくり（前半）

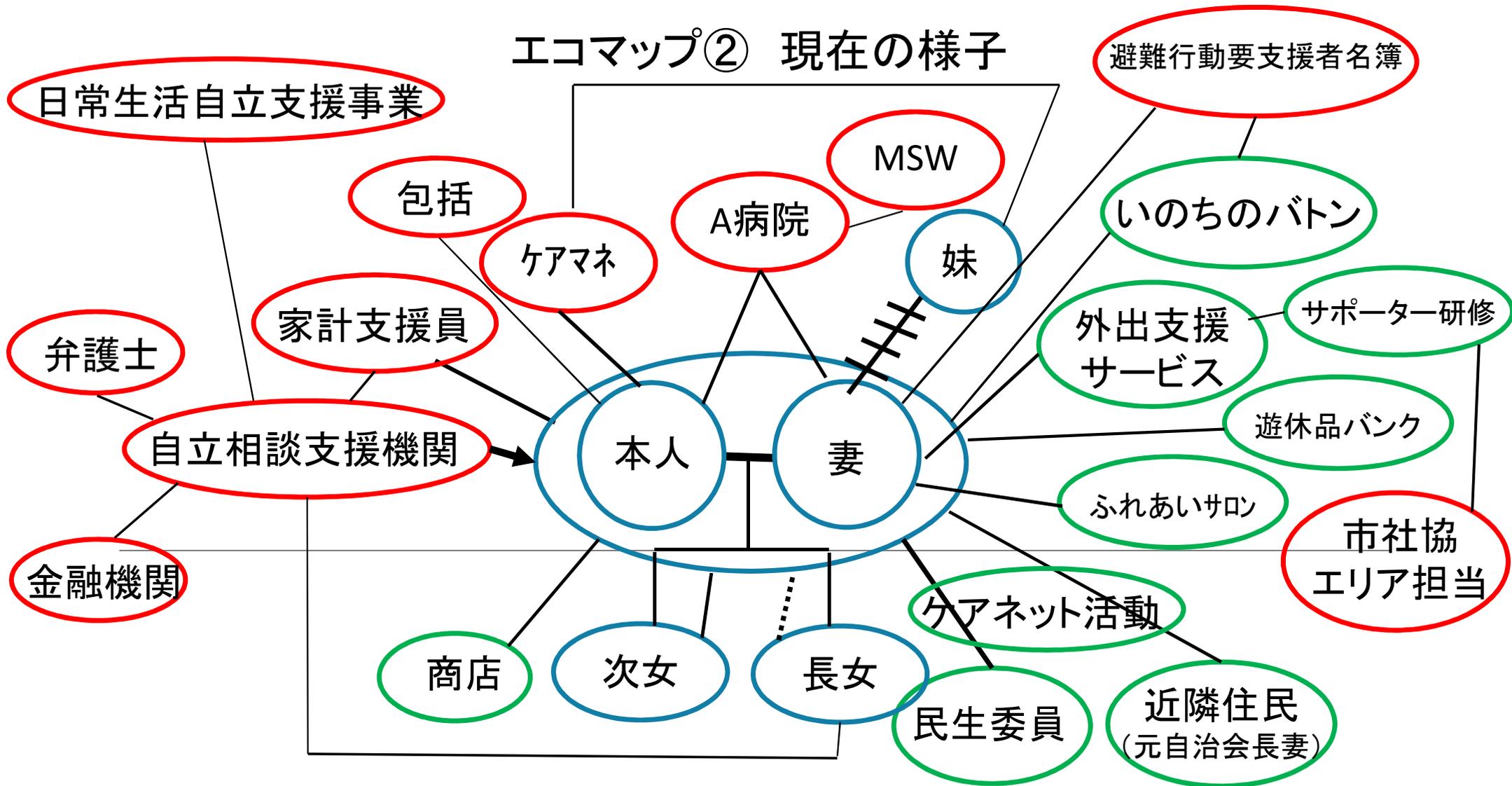
■個人ワーク エコマップ② 現在の様子

現状のエコマップを下に作成してください。

エコマップ① 最初の様子



エコマップ② 現在の様子



プロセスレポートシート

本人のニーズ・状況	主任相談支援員の働きかけ	地域・近隣住民	専門機関
夫婦「退院後の夫の状態が不安」 →妻が介護保険手続きのため市役所来庁。	来庁した際に、夫の介護以外で困りごとはないかと聞いたところ、「特にない」との回答があったが、二人の生活のことで今後関わらせてもらいたいと伝えたところ、了解を得て、夫婦の情報について、包括と情報共有。		介護保険担当が対応し、妻が以前お世話になっていた居宅が夫のケアを担当。
(2日後) 夫に面談「生活費が心配」 *身体的な不安はなし	夫の状態を確認するために、ケアマネと病院に同行し、MSWの仲介の中で、夫に聞き取りをしたところ、いろいろな支払いが大変なことがわかった。 ◎ <u>ケアマネと役割分担を明確化</u> 。(夫に関すること…ケアマネ、生活全般、近隣との関係…主任相談支援員)		ケアマネ…移動手段がなくなるため、精神科の受診が今後厳しくなることから、妻と同じ病院へ切り替えるよう手続き
(3日後) 自宅で妻と面談。「生活費が心配」、「親類と疎遠で回りに頼る人がいない」	ケアマネと同行し、住環境の確認のため、自宅を訪問。借金(サラ金)や税の滞納があることが明らかとなった。 借金の整理について、弁護士に相談し、借り換え可能な金融機関へも相談。 孤立している状態の確認のため、民生委員へ聞き取り。	民生委員…昔から気になっていた家だが、特に訴えがなかったため、具体的な関わりがなかった。今後の関わりについては、前向き。	ケアマネ…夫の状態から風呂の見守りのための訪問介護を調整 弁護士…法的措置の可否確認 金融機関…本人宅訪問
(半月後、退院) 夫婦「電気の交換などちょっとしたことが心配」 →ケアネット活動開始	その他買い物や電球の交換などが心配とのことで、担当の民生委員につなぎ、見守りを依頼。 ◎ <u>意図的な孤立防止のためのネットワークを構築</u>	民生委員、近隣住民(元自治会長の妻等)がメンバーでちょっとしたお手伝いと定期的な見守りのためのケアネット活動を行うためチームを編成。	ケアマネ…民生委員と顔合わせ
(半月後) 「買い物や通院が心配」 →外出支援サービス利用開始	地区内に外出支援サービスがあることを夫婦に伝え、利用できるよう調整。 合わせて、地区内で外出支援サポーターの研修があることがわかり、プログラムのなかに片麻痺の方の介助法について加えてもらうように研修担当と調整した。 ◎ <u>意図的な地域の支援力向上の機会を作る</u>	民生委員から申し込み用紙を自宅へ届けて、利用説明。	市社協地域担当…意図的に介護技術習得プログラムの挿入。 実際、利用、初回時に同行し、対応方法について確認。
夫婦「家計管理に不安がある」→日常生活自立支援事業に興味有	借金について、報告後、日常生活自立支援事業の紹介調整。借り換えはNG、(年金担保で別の借金があることが判明したため)事業利用が実現しなかったが、借り換えの条件として家計管理を透明化するという条件から、家計支援を導入。 ◎ <u>意図的な関わりの継続</u>		社協日常生活自立支援事業担当者…事業説明 *借り換えが実現しなくなったが、借り換え後の返済の条件として、本事業を活用するよう準備。
夫婦レートの保管とレートのないものの記録	家計支援員と月1回訪問し、収支の確認を行う。		家計支援員…レート・記録の整理。(グラフ化)
(1か月後) 長女「夫婦の生活が不安」	訪問時、帰宅していたため、聞き取りを行う。夫婦とは関係は良くないが、生活は不安とのことで、何かあった際に連絡することに了承を得る。		
次女「通帳の預かり」 妻…預かってもらい、安心した様子	ライフラインの利用料が滞ることがないように、ケアマネに相談し、以前金銭管理もしていた妻の妹に打診するよう伝えた。		ケアマネ…妹へ連絡したところ、関係が悪化していることから自分は無理だが、次女にお願いしてはとのことで、次女から了解を得る。
(1か月後) 夫婦「夫の状態もよくなり、訪問介護を終了したい」	定期訪問時、サービス利用継続の説得を試みるが夫婦の気持ちは動かなかった。その代わりとして、見守りの目だけは継続させるため、地域包括支援センターからの定期的な訪問を依頼。(ケアマネには、状況が変化した場合に常に情報を伝えることとした)		ケアマネ…サービスの継続利用の説得。主任相談支援員からも説得するよう打診。 地域包括支援センター…数か月に1回訪問
妻「普段から触れ合える機会がほしい」 →サロン利用開始	家計支援訪問時に、買い物支援利用の様子をききつつ、地域住民とふれあう機会について確認し、民生委員へサロンへの参加を進めてほしいと伝える。	民生委員…地区内で実施しているサロン(あじさいの会)への誘いを妻へ打診。	
(ケアネット定期訪問時) 妻「市役所からの郵便物の内容がわからない」	民生委員から問い合わせがあり、訪問した際「避難行動要支援者台帳への登録案内」であることがわかり、説明し、その場で記入してもらい、市担当課へ提出。	ケアネット協力員(近隣住民)…訪問時訴えがあったので、民生委員へ確認	
(ケアネット定期訪問時) 夫婦「冷蔵庫が壊れた」	生活困窮者向けの緊急時物資等支援の「遊休品バンク」に在庫があることを確認し、搬入。	ケアネット協力員及び民生委員…訪問時相談された。冷蔵庫搬入時の手伝い及び故障した冷蔵庫の処分調整	遊休品バンク(市社協)担当…バンク内物品の情報提供
(現在) 夫婦「借金を減らすための借り換えを行う」	夫の身体的状態も安定し、夫婦の地域からの孤立も少しずつ解消。 家計の収支についても家計支援を継続し、計画的な支出を实践中。(12月を区切りとし、借り換えに再度挑戦予定)		

演習

事例検討ではありません。

包括的な支援についての考え方や方法をみんなで持ち寄るワークショップです。

個別支援について、公的（フォーマル）に専門職が中心になって行う支援と、地域の福祉力を用いて出来そうな支援について考えてみてください。

A

50歳男性 1人暮らし。

ハローワークで求職活動を行うも身なりや様子から就職は厳しいと判断した担当から紹介されて来所。電気、水道が止まっていることから入浴ができていない状態で、そのことが就職できない理由だと訴える。それ以外には自分のことを話さなかったが、時間をかけて聞き取りをすると、実は多額の借金があり、財産（持ち家）を差し押さえる通知がきており、いつ失ってもおかしくない状況で、お金の管理や見通しをたてて行動することができないことがわかった。地元の出身だが近隣とは疎遠になっている。

B

父 70歳代、要介護度3と長男 40歳代無職、次男 40歳代無職で20年以上引きこもりの世帯。父は、栄養失調で入院中。父のケアマネより、父の年金のみで生活する世帯について相談を受ける。長男は数年前に介護離職。仕事に行きたくても、介護を理由に働けない。次男は中学不登校時より、一度も就労経験がない。民生委員が気にかけていて、月に1度は訪問している。町内会にも入らず、近隣とはよい関係ではない。

C

母 60歳代、年金とパートが主たる収入、単独の交通事故で入院し、職を失う。長男 30歳代職を転々とし、定着しない。離婚し現在無職。孫は小学生、発育に遅れがあり、身なりも不衛生だが、通学はしている。現在の収入は、児童扶養手当のみ。長男は、市役所に不信感を持ち（制約が多く、指図するため）、支援を拒否している。住まいは借家で滞納有。税の滞納もある。保険証も所持していない。民生委員をはじめ、近隣も心配しているが、母は「大丈夫」といい、長男は接触を拒否。

ワークシート

取り組む事例に○を付けてください。 ケース A B C

【このケースの課題】

【支援の内容】

自立相談支援機関

行政

事業所・施設

社会福祉協議会

支援者（民生委員・福祉委員・ボランティア）

ご近所

その他

【こういうケースを支えていくための仕組みの提案】